

## 第8章 自己評価

### 1 性格特性の自己評価

人の話をよく聞き、人の意見に影響されやすく、人に従う児童・生徒が増加している。

児童・生徒の性格特性について、14項目を例示し、「よくあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の5段階で回答者本人に自己評価してもらった。図8-1は今回の調査で「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が高い順から並べたものである。「人に助けてもらったら感謝の言葉をきちんと伝えるほうだ」が88.5%と高く、「人の話をよく聞いて理解しようとするほうだ」「委員に選ばれたら一生懸命に仕事をするほうだ」の割合も7割を超え、しかも3項目とも過去4回の調査よりやや高くなっている。また、「まわりの人の意見によく影響されるほうだ」「人に頼られるほうだ」「リーダーになるより従うほうだ」がいずれも4割強となっており、過去4回の調査に比べて、高くなっている。人の話をよく聞き、人の意見に影響されやすく、リーダーになるより人に従う児童・生徒が増加している傾向にあることがわかる。また、「自然の中で活動することが好きだ」が5割弱で、H29年の調査より低くなり、「そうじの時間によくさぼるほうだ」が年々低くなっている。

性格特性に関するこれらの項目を児童・生徒の男女別と学年別で比較してみる。「人に助けてもらったら感謝の言葉をきちんと伝えるほうだ」については、「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合は、女子のほうが高くなっている。学年別では、学年が上がるにつれて緩やかに増加している（図8-2）。「人の話をよく聞いて理解しようとするほうだ」「嫌いな人でも必要に応じてつき合えるほうだ」についても同じ傾向が見られた（図8-3、図8-4）。反対に、「おこづかいは計画的に使うほうだ」「自然の中で活動することが好きだ」については、男子と女子の比較では、男子の肯定率のほうが高く、学年別では、小学生のほうが中学生より高くなっている（図8-5、図8-6）。

また、「欲しいものはがまんせず、すぐ手に入れるほうだ」については、男子のほうが女子よりやや高く、学年別では、学年が上がるにつれて、「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が高くなっていく（図8-7）。

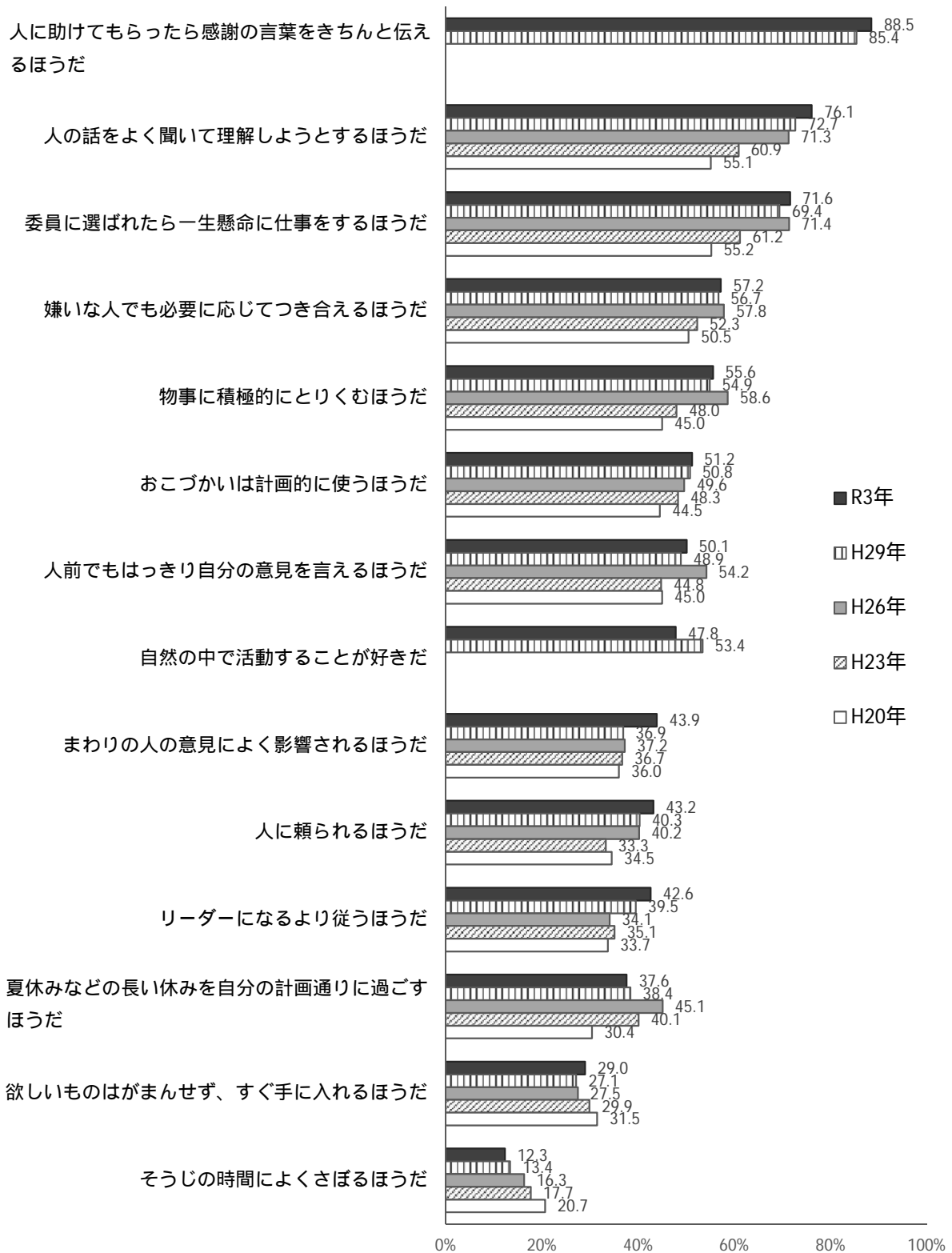


図 8-1 [児童・生徒] 性格特性についての自己評価(「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合)

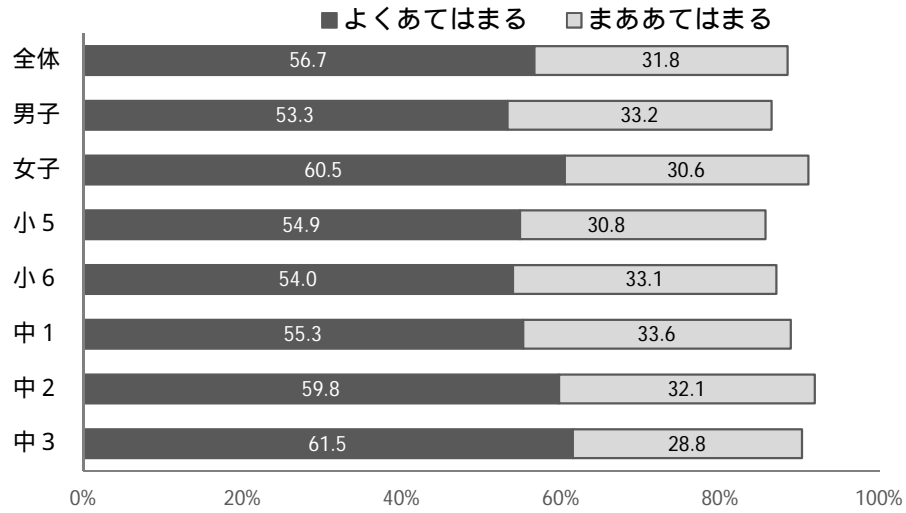


図 8-2 人に助けってもらったら感謝の言葉をきちんと伝えるほうだ

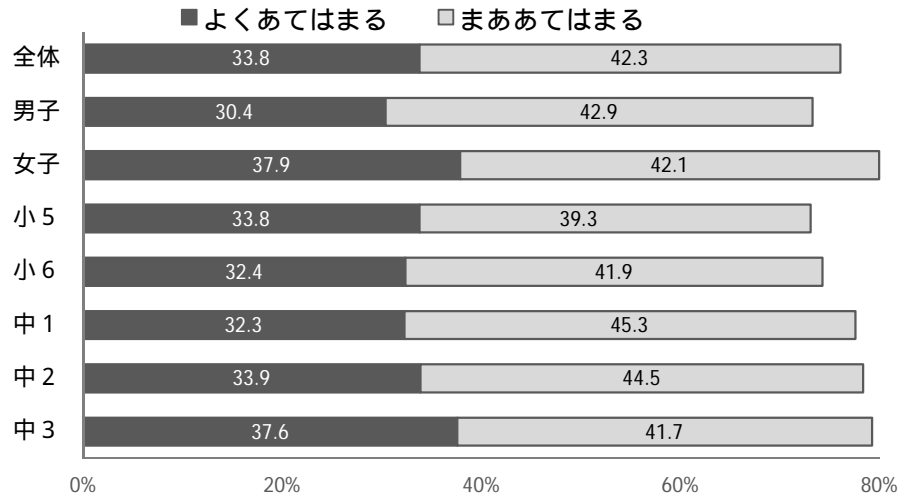


図 8-3 人の話をよく聞いて理解しようとするほうだ

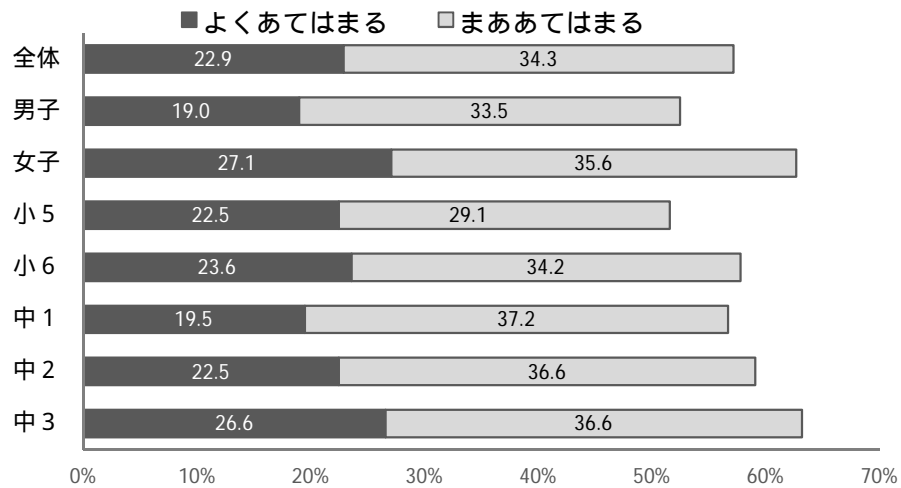


図 8-4 嫌いな人でも必要に応じてつき合えるほうだ

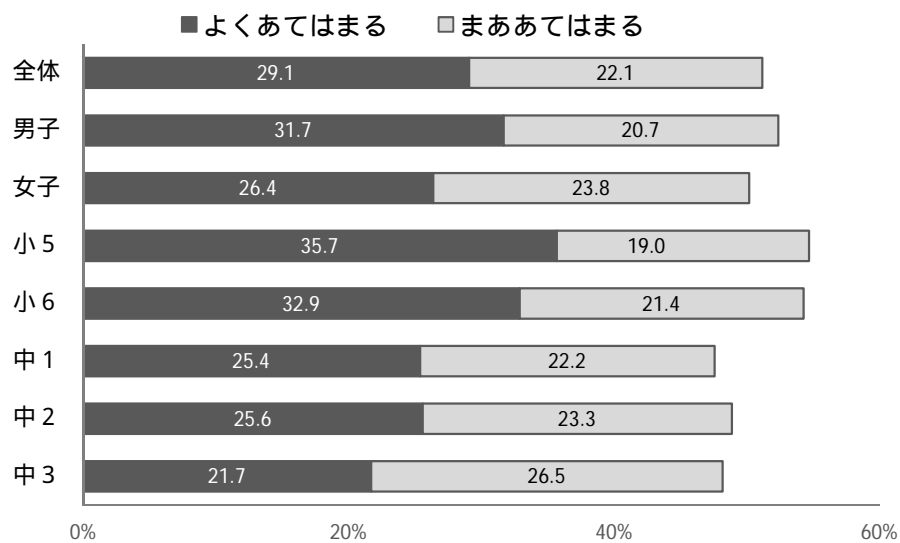


図 8-5 おこづかいは計画的に使うほうだ

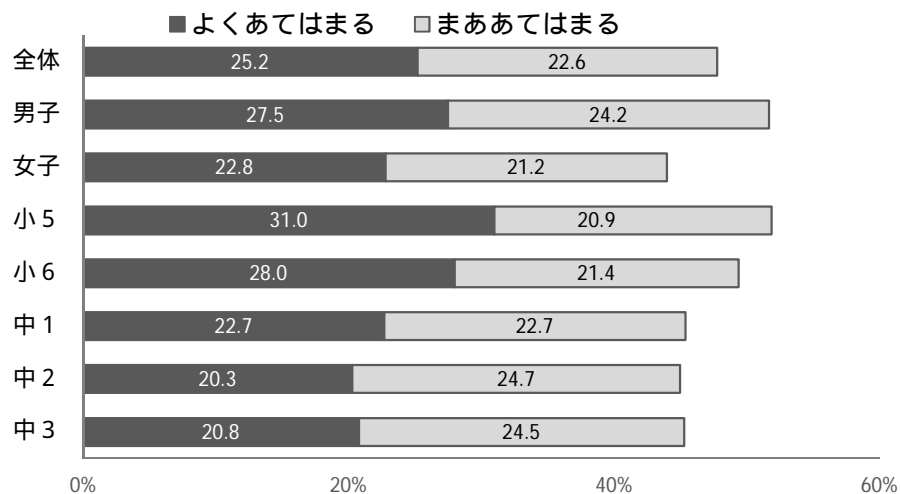


図 8-6 自然の中で活動することが好きだ

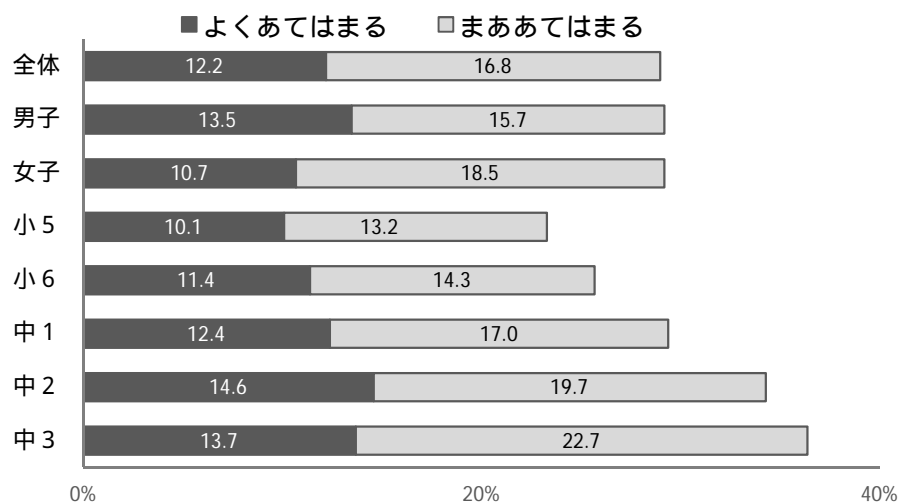


図 8-7 欲しいものはがまんせず、すぐ手に入れるほうだ

## 2 自分自身についての評価

自己肯定感が H29 年の調査に比べて高くなっており、反対に「将来への希望を持っている」が低下している。

今回の調査では、自己肯定感や他者意識、主体性、将来への希望などについて、10 項目を例示し、「よくあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「当てはまらない」の 4 段階で児童・生徒に自己評価してもらった。また、保護者の側から子どもをどのように評価しているかを見るために、同じ項目を保護者にもたずねた。

まず、児童・生徒の回答結果を見てみよう。図 8-8 のとおり、「周りの人それぞれのよいところを認めている」「周りの人の気持ちを大切にしている」について、「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した児童・生徒の割合がいずれも約 9 割となっており、他者肯定意識や他者との協調意識が高いことが見て取れる。また、「自分の良いところと悪いところをきちんと知っている」「自分の間違いを素直に認める」「自分の意見を持っている」といった素直さや主体性を示す項目においては、肯定的な回答の割合がいずれも約 8 割と高い。これに対し、「自分自身が好きだ」「自分自身をほめることができる」といった自己肯定感に関する項目では、肯定的な回答の割合がそれぞれ 6 割強と 5 割強にとどまっている。

将来については、「将来への希望を持っている」が 7 割弱となっている反面、「将来への不安を持っている」も 6 割強となっており、希望と不安が交錯していることがうかがえる。

H26 年と H29 年の調査に比べて、「自分自身が好きだ」「自分自身をほめることができる」の割合が高くなっていて、「将来への希望を持っている」は低くなっている。

次は、保護者の側から見た子どもの自己肯定感や他者意識などを見てみる。図 8-9 のとおり、「お子さんは、周りの人それぞれのよいところを認めている」「お子さんは周りの人の気持ちを大切にしている」について、「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した保護者の割合がいずれも 9 割弱と高く、児童・生徒の回答とほぼ同じである。「自分の良いところと悪いところをきちんと知っている」「自分の間違いを素直に認める」では、保護者の肯定的回答の割合が児童・生徒より低くなっている。また、「将来への不安を持っている」と回答した児童・生徒の割合が 6 割強となっているのに対し、保護者は 5 割も満たなかった。反対に、「お子さんは自分自身のことが好きだ」「お子さんは将来への希望を持っている」「お子さんは自分自身をほめることができる」「お子さんは自分自身を信じている」「お子さんは自分の意見を持っている」といった自己肯定感などに関する項目では保護者の肯定的な回答の割合が児童・生徒を大きく上回っている。

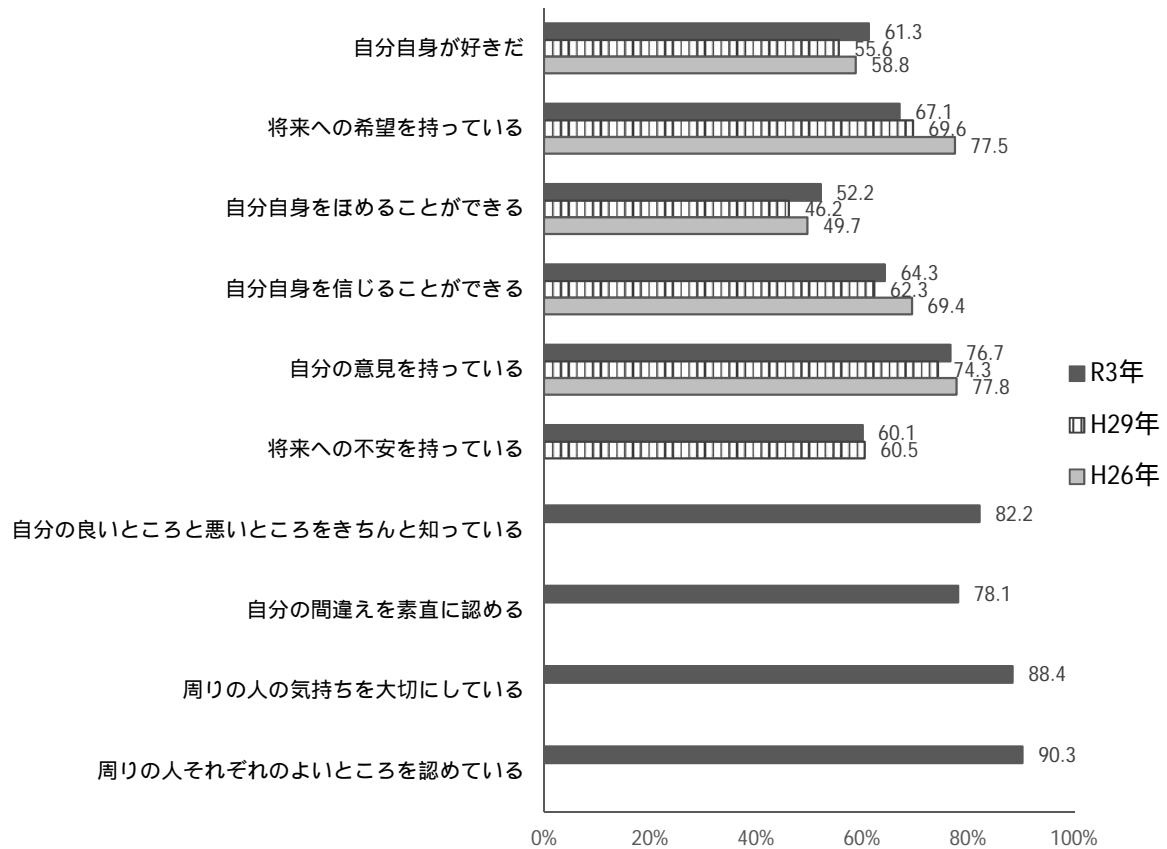


図 8-8 [児童・生徒]自分自身についての評価(「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合)

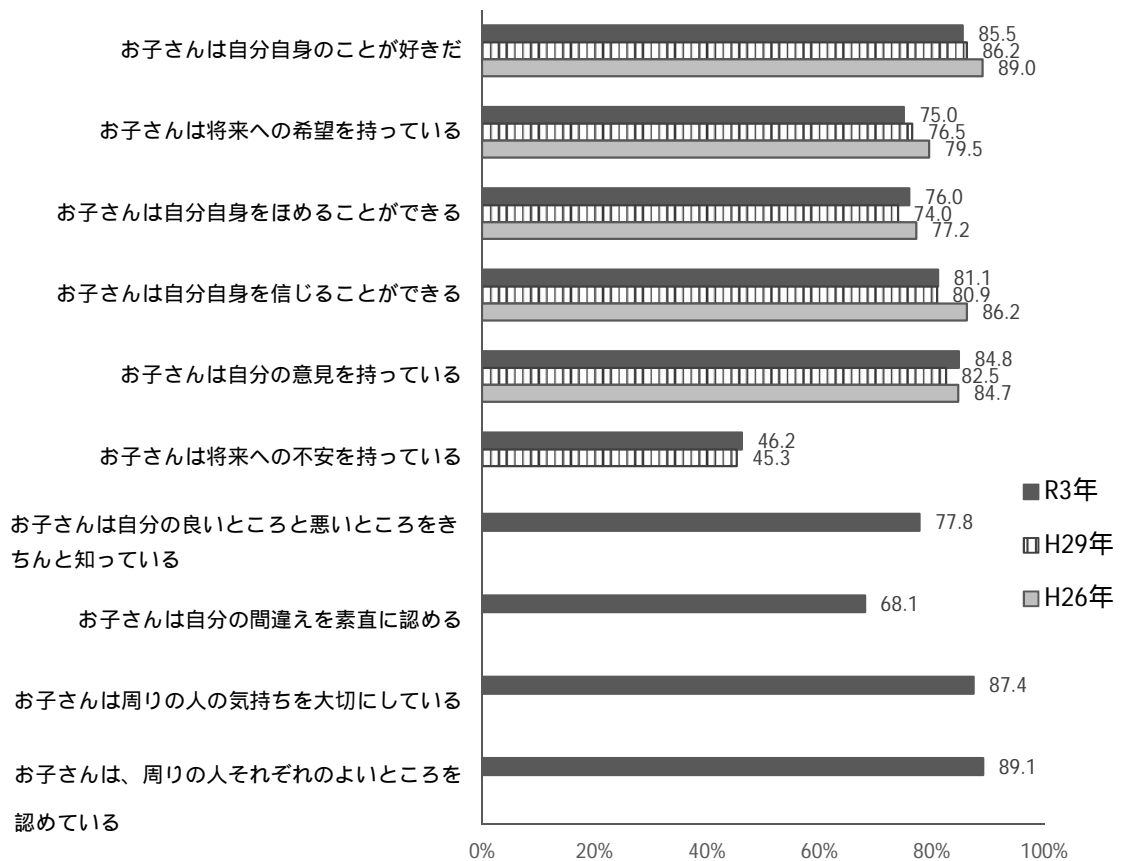


図 8-9 [保護者]子どもへの評価(「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合)

自分自身についての評価を児童・生徒の男女別、学年別に見てみる。「自分自身が好きだ」については、「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合は、男子のほうが女子より10ポイント弱高い。学年別では、学年が上がるにつれて減少している傾向にある(図8-10)。「将来への希望を持っている」にも同じ傾向が見られた(図8-11)。これに対し、「将来への不安を持っている」では、女子のほうが高くなっている。学年別では、学年が上がるにつれて、肯定的な回答の割合が著しく上がっていく(図8-12)。

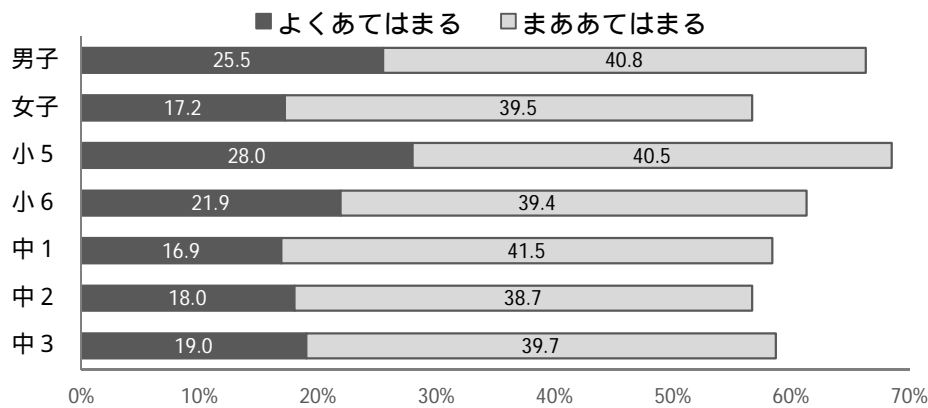


図8-10 [児童・生徒] 男女別・学年別/自分自身が好きだ

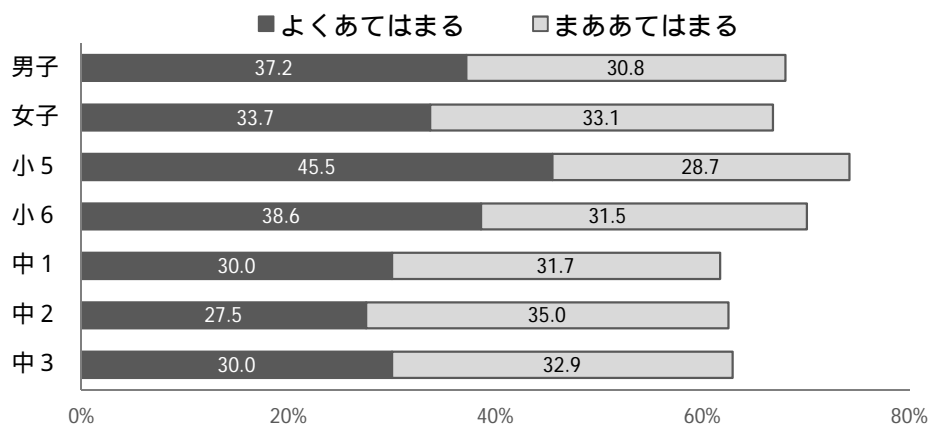


図8-11 [児童・生徒] 男女別・学年別/将来への希望を持っている

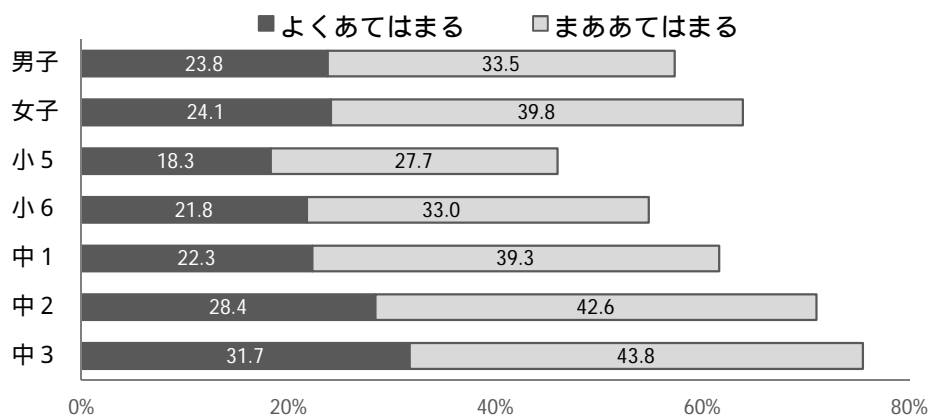


図8-12 [児童・生徒] 男女別・学年別/将来への不安を持っている

また、「周りの人の気持ちを大切にしている」「周りの人それぞれのよいところを認めている」について、男子と女子の比較では、いずれも女子の肯定的な回答の割合が高くなっている。学年別では、学年進行とともに、緩やかに上がっている（図 8-13、図 8-14）。

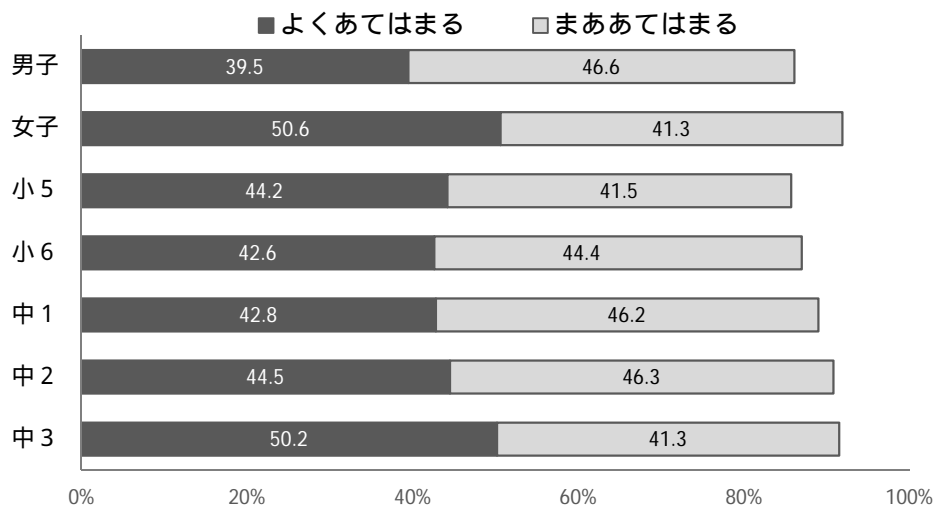


図 8-13 [児童・生徒] 男女別・学年別/周りの人の気持ちを大切にしている

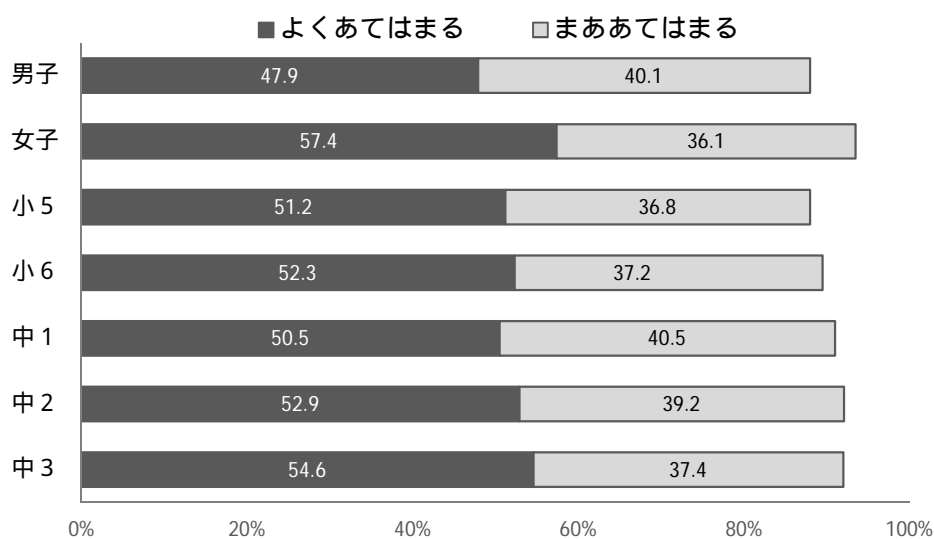


図 8-14 [児童・生徒] 男女別・学年別/周りの人それぞれのよいところを認めている

### 3 幸福感

幸せだと感じる児童・生徒、保護者とも 8 割を超えている。

幸福感について、H29 年の調査からたずねている。幸せだと「大いに感じる」と回答した児童・生徒の割合が、45.3%に対し、保護者は 34.2%と 11 ポイント低い。但し、「まあ感じる」を合わせると、児童・生徒が 82.5%で、保護者が 85.7%と、双方とも 8 割を超えている。H29 年の調査



に比べて、「大いに感じる」と回答した割合が児童・生徒と保護者ともやや高くなっている（図 8-15、図 8-16）。

男子と女子の比較では、「大いに感じる」と回答した割合は、女子のほうがやや高くなっている。学年別では、学年進行とともに「大いに感じる」と回答した割合が減少している傾向にあるが、中2は中3よりやや低くなっている（図 8-17）。

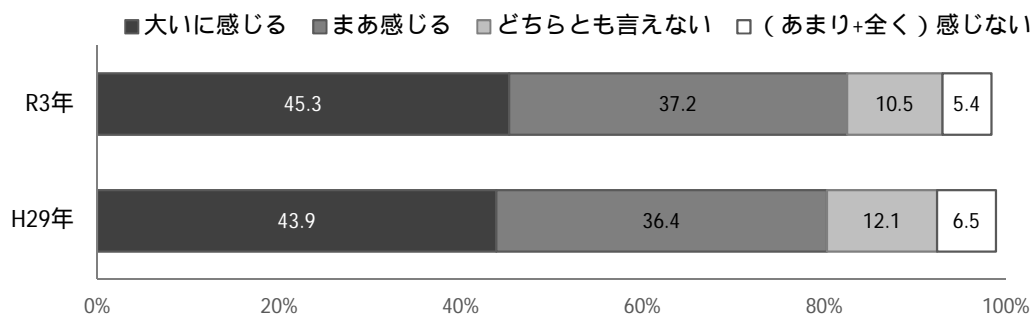


図 8-15 [児童・生徒]幸せだと感じますか

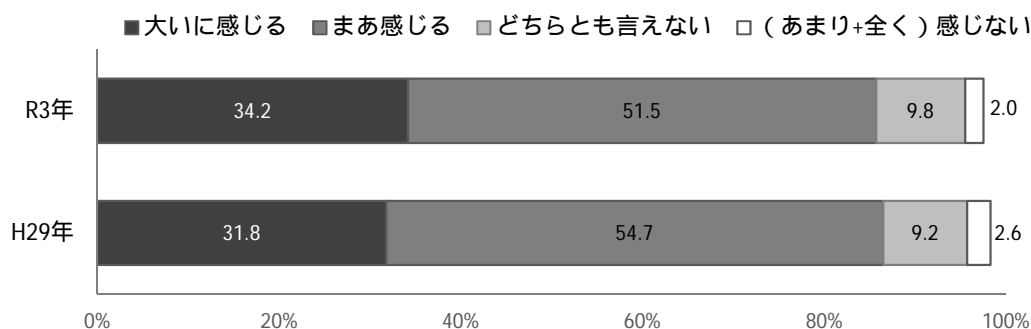


図 8-16 [保護者]幸せだと感じますか

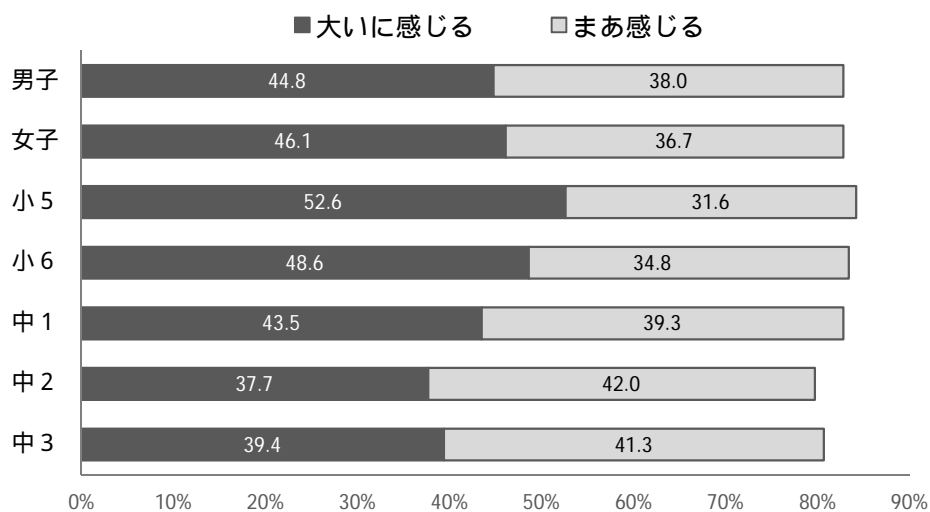


図 8-17 [児童・生徒]男女別・学年別/幸せだと感じますか

## 4 暮らしの状況

「生活が苦しく、非常に心配である」「ゆとりがなく、多少心配である」と回答した保護者の割合が25%となっている。

また、暮らしにゆとりがあると感じている保護者ほど、幸福感が高く、学校の行事に参加し、子どもをよくほめ、子どもの悩みをよく聞いてあげるなど、子どもにより目を向ける傾向が見られた。

今回の調査で、初めて保護者に今の暮らしの状況についてたずねた。「ゆとりがあり、全く心配なく暮らしている」と回答した割合が16.1%で、「ゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」が58.0%となっている。これに対し、「生活が苦しく、非常に心配である」が3.6%で、「ゆとりがなく、多少心配である」の21.5%を合わせると、4分の1の保護者が生活に不安を抱えていることが見て取れる(図8-18)。

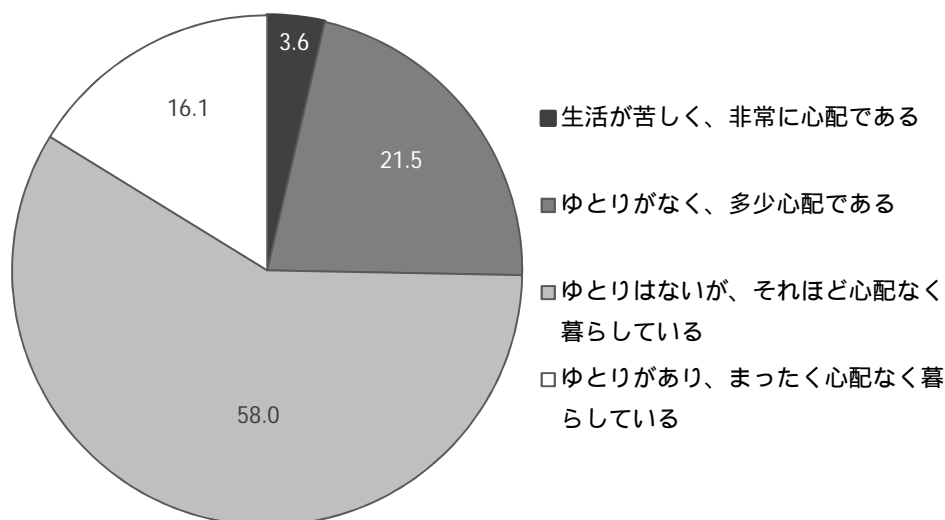


図8-18 [保護者]今の暮らしの状況

次は、暮らしの状況と幸福感、子どもとのかかわり、子どもとの接し方、子育てに関する考え方などとの関係を見てみる。

図8-19は「今の暮らしをどのように思いますか」と保護者に対する「幸せだと感じますか」の2質問の回答をクロス集計した結果を示したものである。暮らしにゆとりがあると感じている保護者ほど、幸福感が高くなることがわかる。しかし、図8-20のとおり、子どもの幸福感は保護者ほど、暮らしの状況に影響されていないようである。

また、暮らしの状況と子どもとのかかわりの関係について、表8-1のとおり、暮らしにゆとりがあると感じている保護者ほど、子どもの生活の様子や友達のことをよく知り、学校の行事に参加し、家族と子どもの教育についてよく話し合う傾向が見られた。

子どもとのかかわりについては、表8-2のとおり、暮らしにゆとりがあると感じている保護者ほど、子どもをよくほめ、子どもの悩みをよく聞き、子ども自身の意思を尊重する傾向にある。反

対に、生活を心配している保護者ほど、子どもに無意味に怒ったり、おどかしたり、子どもをほったらかしにしたりすることが多くなっている。

子育てに関しては、表 8-3 のとおり、生活を心配している保護者ほど、子どもに早く目標を決めてほしい、子どもとのめ事を避けたいと思っている。

子どもの人生にとって重要だと思うことについては、表 8-4 のとおり、生活を心配している保護者ほど、子どもに親友を持ち、安定した仕事につき、手に職を持ち、自然の大切さや厳しさを理解することを望んでいる。

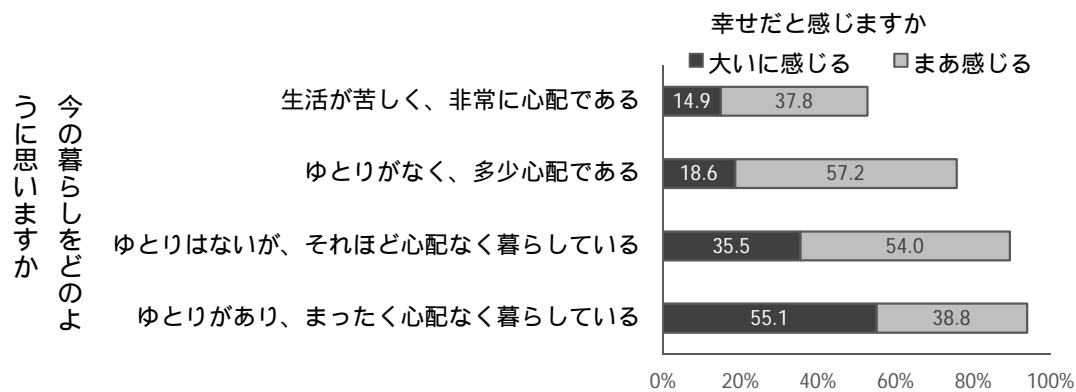


図 8-19 [保護者]今の暮らしの状況 × 幸福感

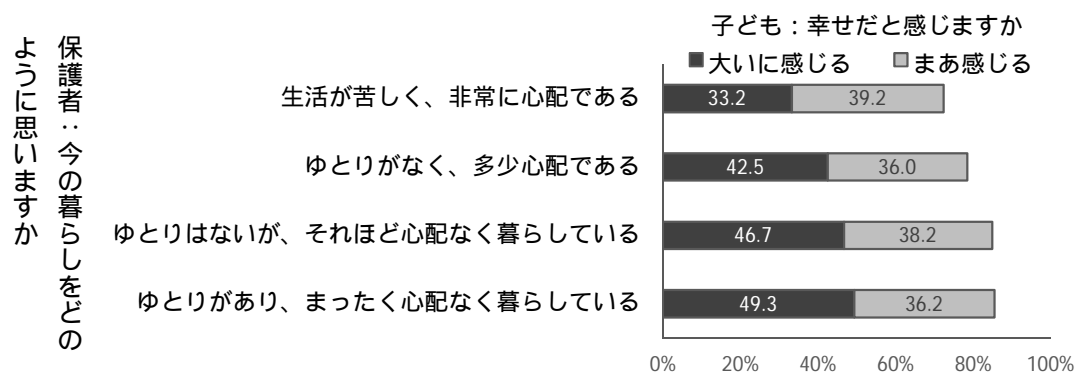


図 8-20 保護者:今の暮らしに対する感じ方 × 子ども:幸福感

表 8-1 [保護者]「今の暮らしをどのように思うか」 × 子どもとの関わり (%)

	今の暮らしをどのように思うか			
	生活が苦し く、非常に心 配である	ゆとりがなく、 多少心配で ある	ゆとりはないが、 それほど心配なく 暮らしている	ゆとりがあり、 まったく心配な く暮らしている
子どもの普段の生活の様子を知っている	37.8	35.3	43.3	54.0
お子さんの仲のいい友達をよく知っている	28.4	32.3	37.5	44.9
お子さんの勉強をみてあげることが多い	10.9	10.0	14.5	24.3
学校の授業参観や運動会などの行事に行く	53.7	60.0	68.2	73.0
子どもの話をよく聞くようにしている	46.8	41.6	46.7	56.3
家族と子どもの教育やしつけについてよく話し合う	25.4	23.0	29.4	38.3

表中の数値は「あてはまる」と回答した割合

表 8-2 [保護者]「今の暮らしをどのように思うか」×子どもとの接し方 (%)

	今の暮らしをどのように思うか			
	生活が苦しく、非常に心配である	ゆとりがなく、多少心配である	ゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	ゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
子どもをよくほめてあげる	72.1	78.6	83.5	89.0
子どもが困った時、助けてあげる	89.6	94.4	95.6	96.9
子どもの悩みをよく聞いてあげる	78.1	87.3	89.5	92.9
子どもに、無意味に怒る時がある	27.4	22.2	18.6	17.1
子どもがいうことを聞かない場合、おどかしたりするような強い厳しい叱り方をする	41.8	37.5	34.8	33.6
子どもをほったらかしにしている	25.9	18.8	13.1	14.5
できるだけ子ども自身の意思を尊重する	83.6	92.1	93.2	95.4

表中の数値は「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合

表 8-3 [保護者]「今の暮らしをどのように思うか」×子育てに関する考え方 (%)

	今の暮らしをどのように思うか			
	生活が苦しく、非常に心配である	ゆとりがなく、多少心配である	ゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	ゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
子どもはできるだけ早く自分の将来の目標を決めて、それに向かって努力してほしい	34.3	28.6	24.7	27.2
子どもは将来のことをあまり急いで決めず、できるだけいろいろなことを経験してほしい	18.4	19.0	18.0	24.1
できれば、子どもともめ事を避けたい	30.3	16.7	14.2	17.7
子育ては苦労が多いが、親（保護者）の義務である	50.7	43.5	41.2	44.4
子どものために学校に積極的に協力したい	16.4	16.3	14.7	22.7

表中の数値は「とてもそう思う」と回答した割合

表 8-4 [保護者]「今の暮らしをどのように思うか」×子どもの人生にとって重要だと思うこと (%)

設問	今の暮らしをどのように思うか			
	生活が苦しく、非常に心配である	ゆとりがなく、多少心配である	ゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	ゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
苦楽を分かち合えるような親友を持つこと	65.7	62.9	61.5	59.2
安定した仕事につくこと	56.7	40.9	34.1	35.7
手に職を持って生きること	38.3	29.6	23.7	25.1
自然の大切さや厳しさを理解すること	50.2	43.1	43.1	43.8

表中の数値は「大変重要」と回答した割合

## 5 生き方

児童・生徒の5割強は将来、「自分の趣味や個性を大切に、それを伸ばしていくような生き方をしたい」と考えている。これに対し、保護者の5割強は、「他人との協調を大事にするタイプだ」と回答した。

将来、どのような生き方をしたいかを児童・生徒にたずねた。回答率が最も高いのは「自分の趣味や個性を大切に、それを伸ばしていくような生き方をしたい」で、53.4%となっている。次いで「周囲の人たちと協調して、人の和を大切にしようような生き方をしたい」(33.7%)、「自分から進んで物事を考え、社会のリーダーになるような生き方をしたい」(9.0%)の順となっている。過去4回の調査に比べて、大きな変化が見られなかった(図8-21)。

また、保護者に「自分がどのようなタイプの人間だと思いますか」とたずねたところ、「他人との協調を大事にするタイプ」が52.3%と、最も高く、次いで「自ら進んで物事を考え、行動するタイプ」(27.0%)、「自分の趣味や個性を大切に、それを伸ばしていくような生き方をしたい」(15.0%)の順となっている。保護者も児童・生徒と同じく、過去4回の調査に比べてあまり変化がなかった(図8-22)。

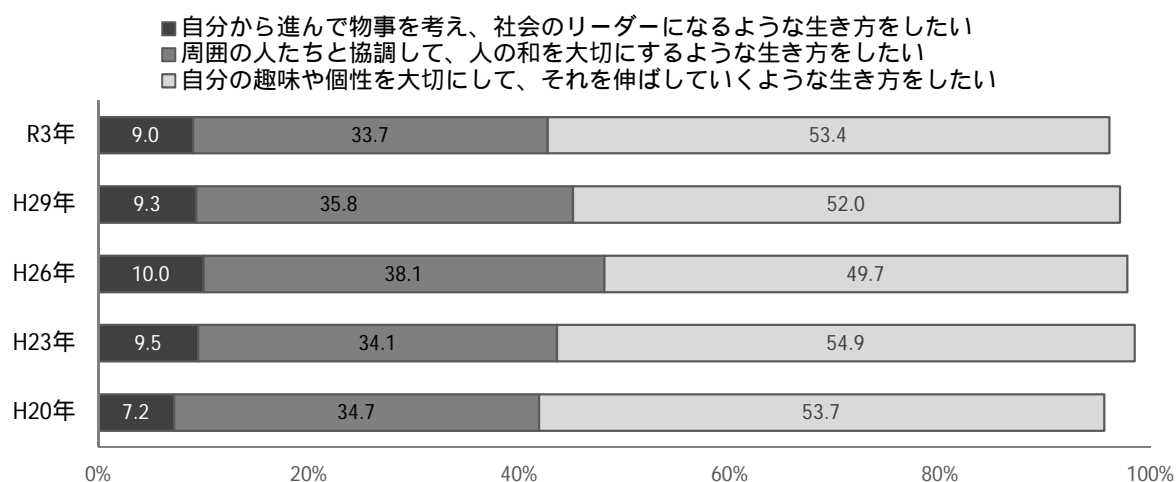


図8-21 [児童・生徒]将来、どのような生き方をしたいと思いますか

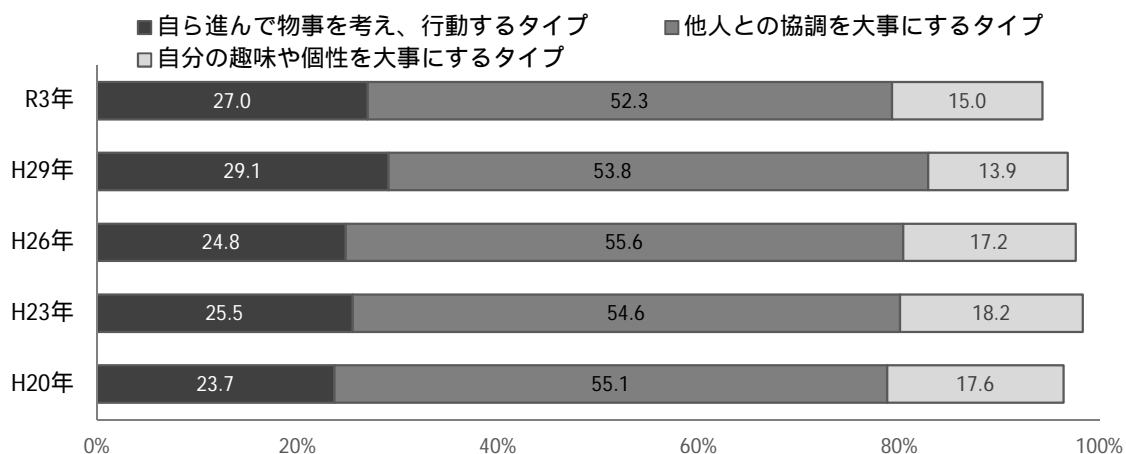


図8-22 [保護者]自分がどのようなタイプの人間だと思いますか

保護者の生き方が子どもにどのような影響を与えるかをみるために、保護者と子どもの回答をクロス集計した。表 8-5 のとおり、保護者は「自分の趣味や個性を大事にするタイプ」である場合、その子どもが「自分の趣味や個性を大切に、それを伸ばしていくような生き方をしたい」と回答した割合はやや高くなっている。その他の 2 タイプも同じ傾向が見られた。保護者の生き方は、若干その子どもの生き方に影響していることが見て取れる。

表 8-5 保護者「自分がどのようなタイプの人間か」× 児童・生徒「将来、どのような生き方をしたいか」

児童・生徒	保護者	自ら進んで物事を考え、行動するタイプ	他人との協調を大事にするタイプ	自分の趣味や個性を大事にするタイプ
自分から進んで物事を考え、社会のリーダーになるような生き方をしたい		10.8	9.5	7.9
周囲の人たちと協調して、人の和を大切にしようとするような生き方をしたい		34.0	37.3	32.2
自分の趣味や個性を大切に、それを伸ばしていくような生き方をしたい		55.2	53.2	59.9

また、保護者の生き方が子育てにどのように反映しているかを見るために、子どもとの接し方、子育てに関する考え方などの回答を生き方のタイプ別で集計してみた。

子どもとの接し方については、表 8-6 のとおり、「自ら進んで物事を考え、行動するタイプ」と回答した保護者のほうが、子どもをよくほめ、子どもが間違っている時は、きちんと叱り、子どもが困った時、助けてあげ、子どもの悩みをよく聞いてあげる傾向にある。「他人との協調を大事にするタイプ」と回答した保護者のほうが、子ども自身の意思を尊重する意識がほかの 2 タイプより低くなっていることがわかる。

子育てに関する考え方については、表 8-7 のとおり、「自分の趣味や個性を大事にするタイプ」と回答した保護者のほうが、「子どもの日常生活に立ち入らないようにしたい」「子どもは子ども、自分は自分の生きがいを追及したい」と考えている者の割合は高くなっており、反対に、「子どものためになるなら、いくら苦勞してもかまわない」「子育ては、楽しみであり生きがいである」「子どものために学校に積極的に協力したい」と考えている割合は低くなっている。

子どもの人生にとって重要だと思うことについては、表 8-8 のとおり、「自ら進んで物事を考え、行動するタイプ」と回答した保護者は他の 2 タイプに比べて、「自分にあつた仕事で成功すること」「世の中のいろいろな問題にチャレンジすること」「仲間のリーダーになること」「大きな組織の中の高い地位につくこと」を重要視している。「他人との協調を大事にするタイプ」の保護者は、「良い結婚相手を見つけ、幸せな家庭生活を送ること」「苦楽を分かち合えるような親友を持つこと」「安定した仕事につくこと」を重要視している。「自分の趣味や個性を大事にするタイプ」の保護者は、「好きなことをする余裕を持つこと」を重要視し、「良い学校に入ること」への期待は他の 2 タイプより低くなっていることがわかる。

また、幸福感については、「自ら進んで物事を考え、行動するタイプ」の保護者には、幸せだと「大いに感じている」と回答した割合が高くなっている（図 8-23）。

表 8-6 [保護者]生き方×子どもとの接し方

(%)

	自ら進んで物事を考え、行動するタイプ	他人との協調を大事にするタイプ	自分の趣味や個性を大事にするタイプ
子どもをよくほめてあげる	28.7	22.5	22.8
子どもが間違っているときは、きちんと叱る	67.5	61.4	56.1
子どもが困った時、助けてあげる	50.1	44.0	41.4
子どもの悩みをよく聞いてあげる	43.4	39.2	36.7
できるだけ子ども自身の意思を尊重する	32.8	23.5	31.7

表中の数値は「とてもあてはまる」と回答した割合

表 8-7 [保護者]生き方×子育てに関する考え方

(%)

	自ら進んで物事を考え、行動するタイプ	他人との協調を大事にするタイプ	自分の趣味や個性を大事にするタイプ
子どもの日常生活に立ち入らないようにしたい	32.1	30.3	40.9
子どもは子ども、自分は自分の生きがいを追及したい	56.8	51.4	72.0
子どものためになるなら、いくら苦労してもかまわない	76.2	76.1	60.7
子育ては、楽しみであり生きがいである	86.6	86.4	77.4
子どものために学校に積極的に協力したい	79.5	82.3	68.5

表中の数値は「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合

表 8-8 [保護者]生き方×子どもの人生にとって重要だと思うこと

(%)

設問	回答	生き方		
		自ら進んで物事を考え、行動するタイプ	他人との協調を大事にするタイプ	自分の趣味や個性を大事にするタイプ
自分にあった仕事で成功すること	大変重要	41.5	36.3	39.5
良い結婚相手を見つけ、幸せな家庭生活を送ること	大変重要	41.7	44.4	36.7
苦楽を分かち合えるような親友を持つこと	大変重要	60.8	65.9	56.0
安定した仕事につくこと	大変重要	34.8	39.3	33.3
世の中のいろいろな問題にチャレンジすること	大変重要	30.1	21.1	20.7
子どもを持ち、育てること	大変重要	22.8	21.7	17.5
好きなことをする余裕を持つこと	大変重要	47.5	43.1	55.5
仲間のリーダーになること	大変重要+少し重要	28.0	21.6	16.9
大きな組織の中の高い地位につくこと	大変重要+少し重要	21.6	16.7	12.9
良い学校に入ること	大変重要+少し重要	55.2	55.9	45.1

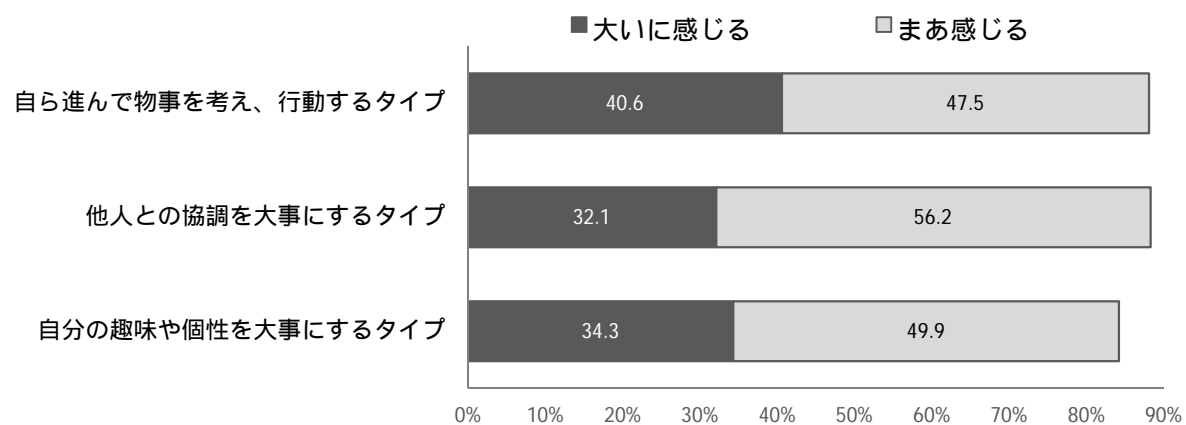


図 8-23 [保護者]「自分がどのようなタイプの人間だと思うか」×「幸せだと感じるか」